

大根採種に関する研究

小原 昶*・浅井繁利*・田中幸孝*

OHARA, T., ASAI, S. and TANAKA, Y.
Studies on the Seed production in Japanese Radish

〔目的〕 福岡県の大根採種は反当 6～8 斗と云われ、戦前に較べると生産力、品質共に低下し栽培技術上の改善点が種々認められるので、播種期と栽植密度の関係について検討を行った。

第 1 報 播種期と栽植密度に関する試験

〔試験方法〕 久留米晩つまり大根を 1 区 0.1 a 3 区制で 1957 年 10 月 15 日, 25 日, 11 月 5 日, 15 日の 4 回に播種, 各播種期 10 a 当 4500 本, 7200 本, 9000 本区を組合せた。

〔試験成績〕 1. 分枝, 着莢数は播種期の早い程多く, 晩播き程少い, 株間との関係では株間の広い程多く, 密植になるに従って少くなっていた。

2. 収量では 最も早播の 10 月 15 日区が収量多く栽植本数では 9000 本の密植区が最も多収だった。

3. 種子の大小重量比は 早播密植区程 6 mesh 以上の大粒歩合が高く, 晩播疎植区程大粒歩合は少く, 中粒歩合 (7～8 mesh) が増加していた。

4. 病害の発生は早播区程菌核病 黒斑病の発生が多かったが, 密植区と疎植区間では密植区が必ずしも発病株率は高くなかった。

〔考察〕 1. 本試験は地味中位の砂質壤土の水田裏作で行ったが, 本試験の範囲内では早播密植栽培が多収になると考えられる。2. 従つて本県のような水田裏作利用の採種は, 水稻刈取後早急に播種するとか, 更に進んで中早生品種に更新する等の労力関係, 前作関係の改善計画化が望まれる。

*福岡県農業試験場

収量調査 (10a当り)

試験区	1区	2区	3区	平均	指数
10月 a (4,500)	10,200	9,200	11,220	10,207	96.3
b (7,200)	11,100	12,250	13,000	12,117	114.3
15日 c (9,000)	13,250	11,000	13,650	12,633	119.2
10月 a (4,500)	8,800	8,700	11,250	9,583	90.4
b (7,200)	10,400	11,200	11,900	11,167	105.3
25日 c (9,000)	11,200	10,600	12,900	11,567	109.1
11月 a (4,500)	8,150	9,400	10,400	9,317	87.9
b (7,200)	10,000	10,300	10,200	10,167	95.9
5日 c (9,000)	9,850	10,150	11,800	10,600	100.0
11月 a (4,500)	7,100	8,100	10,300	8,500	80.2
b (7,200)	10,000	11,120	12,000	11,067	104.4
15日 c (9,000)	9,300	11,150	11,800	10,750	101.4

註：1958年6月5日収穫

第2報 栽植密度に関する試験

【試験方法】 久留米晩つまり大根を1区 0.1a 3区制で、1957年11月8日播種、試験区は10a当4500本、6000本、7200本、9000本の4区に各区1本立、2本立、3本立区を組合せた。

【試験成績】 1. 分枝着莢数は第1報と同じく、疎植区程多く、密植区程少くなっている。1本立、2本立、3本立株間では9000本区を除いて、1本立区が多く、2本立、3本立の順に少くなっている。2. 栽植本数と各株立間の収量は、各栽植本数区共に有意差は認められなかつたが、9000本1本立区が最も収量が多かつた。3. 種子の大小重量比は、各栽植本数区共に1本立区が大粒歩合高く、中小歩合は低く、以下3本立、

2本立の順に大粒歩合が低く、中小粒歩合が高くなっている。

【考察】 本試験の成績からでは明確な差異は認められなかつたが、これは地力、施肥量、施肥時期の問題や、開花期の天候等の関係が悪条件の下におかれた場合一層この差異が発現するのではないかと考えられるので今後更に検討を要すると考えられる。

収量調査 (10a当り)

試験区	1区	2区	3区	平均	指数	
005本	1本立	11,050	10,500	14,250	11,600	91.8
	2本立	11,200	12,100	13,900	12,400	98.2
	3本立	9,900	11,650	11,400	10,983	86.9
000本	1本立	12,500	11,900	10,850	11,750	93.0
	2本立	10,450	11,850	13,000	11,767	93.1
	3本立	10,800	13,250	12,000	12,017	95.1
001本	1本立	11,850	11,000	12,400	11,750	93.0
	2本立	11,900	11,300	12,300	11,833	93.7
	3本立	11,550	12,450	11,650	11,883	94.1
002本	1本立	13,550	13,300	13,200	13,350	105.8
	2本立	13,100	12,850	11,950	12,633	100.0
	3本立	12,000	12,250	13,000	12,417	98.3

（註：1958年6月8日）

参考文献

- 豊岡、吉武、藤野：九州農業研究9(1952) 71。
 佐藤、横山：そ菜試験研究年報(1952) 302, 303。
 江口、香川：同上(1955) 414。
 福岡県農業協同組合中央会：菜種の栽培⁽¹⁹⁵⁵⁾₍₁₉₅₆₎。